

ひろば 大代

平成四10.1

大代公民館

秋の収穫

私のみている農業

柿田 横手新次郎



今農家は猫の手も借りたいほど、大変忙しい時期であり、又一年の苦勞の結晶をみる農業者の一番嬉しい季節でもある。

私も自分の意思で農業をするようになって早三十数年になるのだが、今がどん底の様な気がする。米価は据え置きなら良い方で値下げさえある時である。又、若い者には三Kの代表で最もさらわれている職業の1つである。そんな農業であるが、私は夢を見ながら将来の農業のゆくえを考え、精をだしている。

今年はおもち米が不足して一俵(六十K)四万円と言う幻の値(昨年の倍以上の値)がついたのだが、四万円は五万円でも現物が無いという。一坪の土地に億と言う値をつける日本経済のことですから欲しいとなると、どれ程の

値をつけるのか想像もできない。

うるち米は余っているため、減反政策がとられているが、うまい米の値段と、まずい米の値段の格差は広がってきている。うまい米とまずい米は乾燥の段階で決まるといわれ、機械化が進んだ今、自然乾燥の米が又脚光を浴びそうである。つまり「はで乾燥」の米と火力乾燥の米とは、価格が何千円違う時代がやってくるのでは……。

出雲市農協では「はで乾燥」に近い米に仕上げるカントリーが、今秋から稼働している。

大代の様な棚田で取れた自然の味たっぷりの米は何千円高く買いましょうと言うことにも、そうなれば大代の農業は見直されるではないだろうか。

農水省がまとめた平成4年度の農業動態調査によると、農業以外の産業に就いていた農家出身者のうち農業に戻った人は昨年、全国で一萬九千四百人で、前年に比べて五十八%も増加していることが分かった。この内三十四歳以下の若手農業者は三十五%増加し、Uターン農業者が増えたのは、十年ぶりだという。

大代のあの家、この家にUターン農業者がみられる様になる日もそんなに遠くないような夢を私は見ている。

私が見ている夢が、ただの夢で終わるか、まさ夢になるかはこれからの日本の経済の動向に左右される。まさ夢となることを念じるこの頃である。

ダンプ問題について

大代町交通安全を

考える会々長 後藤 正

今年の「ひろば大代」5月号に会の発足についてお知らせしましたが、その後の動きについて報告します。

去る6月定例市議会です市原議員がダンプ問題について一般質問を行い、行政の対応を質問しましたが、これと云う有効な手だてが中々無いのが実情です。「高山を拓くみんなの会ニューズ・第2号」に質問の詳細な中身が載っています。

7月18日に第2回の「考える会」を持ち、7月21日には飯谷から上市迄の県道に面した51戸(内8戸は不在)を戸別訪問し、この問題をどう見るかのアンケート調査を実施しました。



その結果、

◆音がうるさい10戸病人を抱えている所は本当に困る2戸。

◆振動を非常に感じる9戸。2階には居レン。多少感じる2戸。

◆スピードの出し過ぎ9戸。60K位で走っている。町の中や老人が歩いている時は必ず徐行せよ。

◆道路を歩く時が一番こわい6戸。特にカーブを歩く時や老人は車に吸い込まれる様な気がする。

◆ホコリがするので玄関が開けられない3戸。雨の日しか店の戸が開けられない4戸。曲がり角にあるので余計にホコリがする。

◆排気ガスの黒いのが入って来るので窓が開けられない4戸。曲がり角で一才スピードを落とし又ふかすので坂の途中に家があり、上り下りで全くヤレン。

◆連なって通るのでヤレン5戸。せめて百m位の間隔を置いてくれ。

◆子供の通学時の横断が危ないので非常に気をつけている2戸。幼児の昼寝の時にクラクションを鳴らす事があり、幼児が起きて困る2戸。

◆電波障害が起き、テレビがチラチラしてヤレン2戸。

◆ヒサシのとい、測溝のフタ、堀、石垣の壊れ等の実害が9戸あり、この内、自費で直したのが4戸。その他

◆細に乗り入れて踏まれる。

◆朝5時過ぎに通る6時には積んで帰ってくる。非常識ではないか。

◆日中、街の中を一方通行にしたらずれ違いが無いので被害は小さくなる。

◆子供が学校へ行つた後、8時半過ぎから通って貰いたい。

◆速度を落とせば音も静かになる

◆橋本商店が開店していた時は仕入の車が前に止まっているので速度を落としていたが今は閉店しているの

◆速度を上げて走っている。

◆大阪に居た方がよかった。帰ってこなければよかった。

◆県道が狭いので大森迄はダンプの後について走らねばならぬ。

◆ダンプ運転手の態度が悪い。家の前に置いた自転車をハネられたので文句を言ったら、置くのが悪いと逆に

喰ってかかれた。

◆過積の件、4台連なって走る内、3

台目はしつかり積んでいる。これ以外の車は規定通り少なく積んでいる。この事は意識的にやっているのではない。等々の意見があり、事態はより深刻になっているのが実情です。

これをふまえ、7月29日祖式公民館で関係者が集まり話し合いました。大代11名、祖式13名、瓦組合1名、探掘運搬業者のオーナー5名、警察1名の計31名です。これ等のオーナーは運転手と立場が違うので事態の深刻さが分からず、甘い考えを持っていると思われまます。相当にきびしい此方からの意見が出されましたが、大きく改善されていません。

9月に江津の瓦メーカーとの会議を持つ予定です。又、緊急に調査をせねばならない事もあり、今後住民の皆様方の一層の協力と支援をお願いしたいと思います。

|| 読書の秋 ||

本を読むと若くなる 大代公民館

「本を読むと若くなる」 「本を読むと美しくなる」何かワクワクする言葉ではありませんか。



現在、大代公民館の図書室には蔵書が三千冊余りの本があります。

子ども向きの本から大人向きの本まで揃っています。

特に幼児を抱いているお母さん「どんな本を与えるか、ということよりも子どもをひざにのっけて、一緒に読むという行為が大事になってきます。

また大事なのは子を一人の人間として尊重し、思いやる気持ちで絵本を読んであげる事が大切です。

読書は頭の体操です。優れた本を一緒にいつも呼吸をし、心を豊かに働かせている人は、自然に目の輝きが増して、自信のある顔立ちになるといえます。

これから読書には、最速のシーズンです。大代公民館の図書を大いに利用してください。

皆様のご来館をお待ちしております。

花を愛することで

地球を愛そう



大代公民館

街かどや道沿いなどに何気なく花が植えられている町、みずみずしい緑に つつまれている町、そんな町に出会う

と安らぎと潤いを感じます。また心の やさしい人がたくさん住んでいるなど 思います。

大代町もこのたび大代連合自治会を 通して安らぎと潤いの里づくり挑戦 しました。また公民館も田辺孝氏も挑 戦しました。

美的な社会環境のレベル（水準）を 上げるためにも花いっぱいコンクール が必要となり、参加することによって 町は変わっていくのです。

コンクールは相手と競うことによっ て創意・工夫・努力・愛情が特に要求 されます。

人の気づかない所に気づいて実行し 初めて結果は出てくるものです。

先般、大田市の花いっぱいコンクー ルの審査会があり、大代として次の様 に入賞しました。

- 一、大代連合自治会 努力賞
- 一、大代小学校 努力賞
- 一、大代公民館 優秀賞
- 一、個人の部

田辺 孝氏 特別賞

尚、田辺氏は県の審査会にも推薦さ れており、上位入賞が期待されます。

|| 敬老会インタビュー ||
いつまでもお元気です

編集委員 飯田 徹

去る九月十五日、当大代地区でも恒

例の敬老会が盛大に開催されました。

今年から参加された二十四名の新入会 員方々の中から、数名の方に感想を伺 いました。

- (1)、初めて参加した感想
- (2)、今いちばんの楽しみは？

◎ 渡利春美さん（上市）

(1)、オギヤーと言った時からいつの間 にやら七十年が過ぎてしまいました。 今後とも若々しく生きたいと思ひます。

(2)、囲碁。「一目とらえても兵隊は死 んだらつまらん。」

◎ 田辺梅子さん（椿）

(1)、来年かと思っていたのに案内をも らい、喜ぶところか「ガクッ」ときて 急に年をとったような気がします。

(2)、野菜づくり、旅行、五円玉を使っ た手芸が大好き。

◎ 高村サクエさん（下坂谷）

(1)、敬老会によばれて大変ありがたく 思っています。こんな年まで生きさせ てもらって喜んでいきます。

(2)、孫の成長を見守ること、若い者に

よくしてもらっているので幸せです。

◎ 津村千里さん (上飯谷)

(1)、年をとったなあと思います。それだけでいっぱいです。

(2)、テレビを見たり、本を読んだり。

◎ 森脇タケさん (本郷)

(1)、これまで生きさせてもらってうれしく思います。これからもよろしくお願いします。

(2)、元気で外へ、外へ出られること。

◎ 増田マサヨさん (本郷)

(1)、早うよんでもらって気の毒でした。

(2)、花作り。盆や正月に孫の顔を見るのが楽しみです。

◎ 谷口七重さん (植松)

(1)、突然の招待でびっくりしました。まだまだ若い人達と同じ気持ちでお手伝いさせてもらおうと思います。

(2)、一年中働くこと。

◎ 竹間 茂さん (下谷)

(1)(2)、兄弟の中で最初に敬老会によばれて喜んでいますが、年をとっても地元をよくし、生かしたい。健康であれば村をつくれ、わずかながら協力したいと思います。

以上、まだまだ皆さん年を感じさせ

ない程若々しく、取材をする方が圧倒されるほどでした。

若いもんもがんばらにゃあ。

大江高山登山道下刈り

本郷 松井 幸



快晴の九月六日(日)総勢十六名、したたる様な緑の中を草刈り機による登山道の下刈りが始まった。

薄暗い森林の中を過ぎて山田側一番の難所にかかり、休憩となる。

「ここから八十mが山登りのポイント急いで頑張ると後の体力に無理が生じます。休憩して力を蓄えましょう。」

予定通り開始から三時間余りで山田側頂上に達した。

「苦あれば楽あり」とか、流れる汗も疲労も忘れて眼下に展ける絶景に眺め入った。何ともすばらしい。

お楽しみの昼食も楽しさ一ばい。彼方が〇〇此方が〇〇話しに花が咲いた。

突然飯谷側から登山して来た福山市からやって来られた一組の御夫妻があった。身ごしらえ、足ごしらえも充分

一同の姿に何かホッとした表情で「飯谷側の登りは難渋でした。お陰で下山

は楽々……何はともあれと缶ビール、ジュースの接待に嬉しそうだった。

京太郎山は？冠山は？など地図をはさんでの質問や、うなずきに登山を楽しむ場馴れた人達の一面が伺われた。

実は我々も昨年登山の際、飯谷側頂上に埋め込まれたポストの中に登山者の感想が記入してある事を想像してきただけに午後の作業にはずみがついていた。昨年の台風十九号が荒らした立木の倒壊など大きな障害があったが懸命に頂上八〇八mをめざした。

約3キロ飯谷側頂上に達したのは午後三時半頃だったか。

期待のポストの中には、有った。有りました。中に入れておいたノートの三分の一にギッシリと感想が記入されてありました。ざっと数えて大小七十団体以上の記入には驚いた。

一昨年、登山の折、出合った広島島の畑さん。「2回目の登山、再びやって来ました。松井様によろしく……その時、酌み交わした箱酒や喜びの顔を思い出し、何とも嬉しく不思議な気さえした。

大江高山の存在を何か誇りに思った

事である。こうした偶然の出会いや、町づくりの意義、奉仕、観光の価値、ふる里最発見に何かと考えさせられた一日。夜は楽しい眠りに就く事が出来た。皆さん本当に御苦勞様でした。来る十一月一日(日)高山登山に挑戦してみませんか。



第42回大代町民

運動会を終えて

体育協会 永井利樹

町民運動会に際しましては、町民の皆様にも多数参加していただき、大変ありがとうございました。当日は大きな事故もなく無事大会が終り、肩の荷がおりた気分です。

また町民の皆様、特に幼・小・中の先生、婦人会、自治会の方々の協力に深く感謝致します。

当日の天気を一番気にしていました。が、ここ数年は決めた日に出来ず、延期したり、中止になった年もありました。

前日、仕事で長崎へ出張しており、早朝に帰ったのですが時間とともに雨の量も少なくなり、太陽を見て実施出

来そうになった時はホッと致しました。運動会の準備はとて大変なのです。が、体協の役員の皆様も仕事を犠牲にされ、夜遅くまで協力して準備に取りかかっていたいただき大変ありがとうございました。

大会を振り返り、町民の皆様の高齢化に合わせ競技を考えましたが、体力の低下を感じました。今後は各自の体力向上に体協としても取り組みたいと思います。御協力お願い致します。

福祉施設 訪問記

民生委員 田辺幸子

敬老の日を前に、社協、自治会、公民館、婦人会の代表の方々と福祉施設で老後を過ごしていらっしゃる皆様を訪ねてまいりました。

矢上の「桃源の家」の塚崎サツヨさん87歳、川本の「江川荘」の山城章子さん80歳、「ピラおおだ」の渡利春好さん94歳、市原安臣さん82歳、「眺峰園」の熊本モトヨさん92歳、山口ユリノさん95歳、畑サカヨさん90歳とお会いしていろいろお話を伺いました。銀髪の美しい塚崎さんは、薬いらす

で健康そのもの、まだ針仕事もできるとのこと。若々しい山城さんは、上下お揃いのブラウス、パンツで専らゲートボール。高齢の渡利さんは、まだまだお元気で書の道に専心。市原さんはリーダーとして又趣味の写真に力を。熊本さんは「みんな忘れてなあ」と言いながらも、誕生会に軍歌を十番まで歌いみんなを驚かせたとのこと。山口さんは気の毒ながら寝たきり。畑さんは記憶抜群で、自慢ののどをみんなに聞かせてあげられるとのことでした。何れも皆さん明るく夢を持って生きておられ、反対に私共が励まされる思いでした。

おしらせ



◆大代公民館より

先日亡くなられた渡 寛之様の遺作として大松の盆栽を2鉢頂きました。厚く御礼申し上げます。

◆社協大代支部より

下市 渡 寛基様から

川上 角 藤雄様から

香典返しに替えて金一封の御厚志を御寄付頂きました。御礼申し上げます